

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3123003号

(U3123003)

(45) 発行日 平成18年7月6日(2006.7.6)

(24) 登録日 平成18年6月14日(2006.6.14)

(51) Int. Cl.		F I	
<b>B 6 5 D</b>	<b>81/32</b>	<b>(2006.01)</b>	B 6 5 D 81/32 D
<b>B 6 5 D</b>	<b>85/00</b>	<b>(2006.01)</b>	B 6 5 D 85/00 G
<b>A 6 1 F</b>	<b>13/38</b>	<b>(2006.01)</b>	A 6 1 M 35/00 X

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2005-11226 (U2005-11226)  
 (22) 出願日 平成17年12月13日(2005.12.13)

(73) 実用新案権者 506017953  
 高橋 優子  
 栃木県小山市西城南4-25-20  
 (72) 考案者 高橋 優子  
 栃木県小山市西城南4-25-20

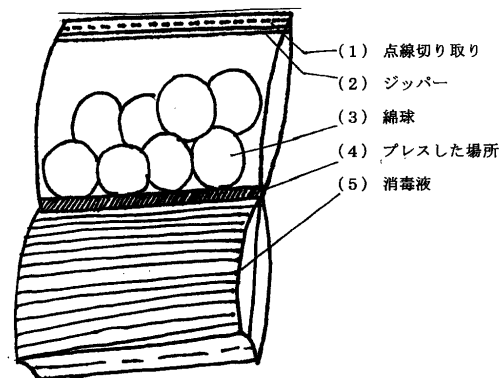
(54) 【考案の名称】 消毒液とセットになった綿球

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】中央でプレスしたプラスチック製の袋の上に綿球、下に消毒液が入っており手で消毒液の方に圧を加えることでプレス部分が開放し、消毒液が綿球に浸透する。このことから、(1) 万能つぼに清潔操作で綿球や消毒液を入れる作業がなく、空気にふれることなく、綿球に浸透させることができる。(2) 1回の処置で使い切りのため清潔。また多少綿球が残っても、ジッパーで清潔に次の処置で使用することができる。(3) 万能つぼを使用することがないため、交換時期がなく、綿球の無駄を避けることができる。(4) 使い切ったらそのまま破棄することができる。

【解決手段】中央でプレスしたプラスチック製の袋の上に綿球、下に消毒液が入っており、手で消毒液部分に圧を加えることで綿球に消毒液が浸透する。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

1枚のプラスチック製の袋が中央でプレスされており、上に綿球、下に消毒液が入っているもの

## 【考案の詳細な説明】

## 【考案の詳細な説明】

## 【産業上の利用分野】

## 【0001】

この考案は1枚のプラスチック製の袋が中央でプレスされており、上に綿球、下に消毒液が入っており、圧を加えることで消毒液が綿球に浸透するものである。 10

## 【背景技術】

## 【0002】

従来病院などで使用されている綿球消毒はオートクレーブで消毒された万能つぼに清潔操作で綿球を入れ、消毒液を浸していくという方法がほとんどだった。

綿球がなくなると、その万能つぼに再度綿球と消毒液を足すなど手間がかかり、清潔度が低下し、万能つぼの交換時期に綿球が入っている場合などがあり、その綿球は無駄になっていた。

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0003】

本考案は、このような問題を解決し、無駄をなくし、清潔で使いやすいものにするために、中央でプレスしたプラスチック製の袋に、1回の処置で使用できる綿球の個数を入れ、消毒液はすべての綿球が浸り、ある程度絞れるくらいの量を入れておく。消毒液に手で圧を加えることで、プレスしたところが開放になり、消毒液が綿球に浸る。

また、上の部分に、点線切り込みとジッパーを付けることで、切り込み点線の部分は使用時に圧をかけ、綿球に浸透後に開ける。

そして、1回で使用できなかった場合ジッパーをしておくことで使用可能となる。それにより、使いきりで清潔が保たれ、無駄を抑えられるようにした。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

中央でプレスしたプラスチック製の袋に、1回の処置で使用できる綿球の個数を入れ、消毒液はすべての綿球が浸り、ある程度絞れるくらいの量を入れておく。

消毒液に手で圧を加えることで、プレスしたところが開放となり、消毒液が浸る。

また上の部分に、点線切り込みとジッパーをつけることで、使用時に圧をかけ、綿球に消毒液が浸透後に切り込み点線の部分を開け、1回で使用できない時はジッパーを用いるようにした。

## 【考案の結果】

## 【0005】

したがって本考案のもたらす利益としては

(1) 万能つぼに清潔操作で綿球や消毒液を入れる作業がなく、空気にふれることなく、綿球に浸透させることができる。 40

(2) 1回の処置で使い切りのため清潔。

また多少綿球が残っても、ジッパーで清潔に次の処置で使用することができる。

(3) 万能つぼを使用することがないため、交換時期がなく、綿球の無駄を避けることができる。

(4) 使い切ったらそのまま破棄することができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0006】

【図1】中央でプレスされたプラスチック製の袋に綿球と消毒液が入ったもの。

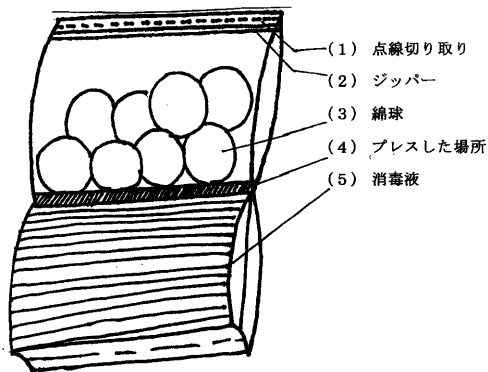
【図2】圧をかけたあとの袋の状態

【符号の説明】

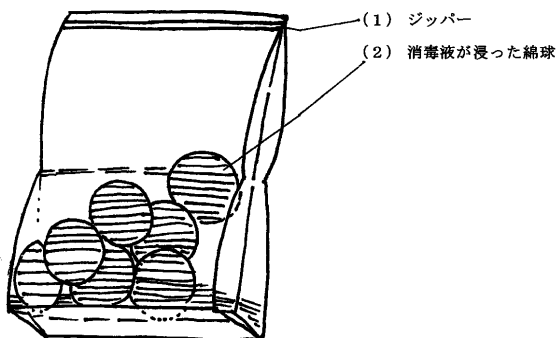
【0007】

- 図1 (1) 切り込み点線 (5) 消毒液 図2 (1) ジッパー  
(2) ジッパー (2) 消毒液が浸った綿球  
(3) 綿球  
(4) プレスした場所

【図1】



【図2】



【手続補正書】

【提出日】平成18年3月22日(2006.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

上が綿球、下に消毒液が入っている中央がプレスされたプラスチック製の袋の消毒セット